

科目名			授業の種類		授業担当者	
保育原理			講義		柿畠 千恵子	
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修	
1	2	30	15	前期	幼免:選択 保育士:必修	
〔授業の目的・ねらい〕						
時代のニーズに適した乳幼児期の教育・保育を実践していくために保育所保育指針等が改定された。乳幼児期の教育・保育の土台となる「保育」を理解するために、保育原理について考究する。						
〔授業全体の内容と概要〕						
保育の原理原則、保育の根幹を学び、保育者の役割と使命について理解する。 時代のニーズに対応する保育施設の必要性和時代に関わらず保育の基本となる子どもの捉え方を考究する。 諸外国の保育思想の潮流、日本の保育思想や保育施設の誕生から発展の経緯を理解する。						
〔受講上の注意事項〕						
保育原理で学ぶ内容と実践的な内容である他の科目や様々な実習経験を関連づけながら、保育について理解を深めることを意識する。						
〔使用テキスト〕			〔評価基準〕			
基本シリーズ1 保育原理 出版:中央法規			試験・提出物、授業態度			
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕						
回	項目		授業内容			
1	保育の理念と概念		保育の根幹・意義や役割を理解し、理念や概念を知る。			
2	保育の社会的役割と責任		保育所等に求められる社会的責任について学ぶ。			
3	保育に関わる関係法令と保育の実施体系		子ども・子育て支援制度について学び、支援の内容や保育の実施体系について理解する。			
4	保育所保育指針に基づく保育		保育所保育指針の改定趣旨及び内容について具体的に学び理解する。			
5	保育の目標と方法		保育所保育指針を基に、保育の目標と方法について理解を深める。			
6	乳児及び1歳以上3歳未満児の保育		乳児・3歳未満児の発達過程や保育の基本をふまえ、内容の理解と関わり方を学ぶ。			
7	3歳以上児の保育		3歳以上児の発達過程や保育の基本をふまえ、内容の理解と関わり方を学ぶ。			
8	子ども理解に基づく保育の過程①		子ども理解の視点に沿って子どもの理解を深め保育の過程を学ぶ。			
9	子ども理解に基づく保育の過程②		子ども理解の様々な視点を踏まえ作成する計画について具体的に学ぶ。			
10	子ども理解に基づく保育の過程②-2		子ども理解に基づく保育の過程に加え、学びの連続性を考えた小学校との接続を理解する。			
11	諸外国の保育の思想と歴史		近代以前、近代初期の保育思想等について学び、現代の保育の基本理念の理解を深める。			
12	日本の保育の思想と歴史		過去の人や社会が子どもとそれを取り巻く環境をどのようにとらえ、保育を構想したか学ぶ。			
13	諸外国の保育の現状と課題		未来の「保育」を考える上で必要な広い視野を得るために諸外国の保育について学ぶ。			
14	日本の保育の現状と課題		日本の保育の変化1期を意識しながら、今日的課題や制度改革の実態を知る。			
15	試験		まとめ			
実務教員としての経歴		保育園勤務38年、その後園勤務体験を基に長野市保育所等の保育士研修に携わっている。				
実務経験と授業の関連		近年の現場状況を踏まえた保育士研修体系作成の体験を生かし、学生達に保育の原理原則を伝える。				